キャラクター名
出雲 秋葉(いずも あきは)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン キュマイラ	ワークス	何でも屋	カヴァー	探偵
オプショナル		年齢	22	性別	女
覚醒	忘却	衝動	解放	初期侵食率	37 %
出自	双子	経験	記憶喪失	邂逅	いいひと(谷修成)

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0			4
感覚	0	0	1			1
精神	3	0	0			3
社会	2	0	0			2

HP	31
行動値	4
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志	4		調達	8	
運転：			芸術：			知識 :レネゲイド	1		情報： 噂話	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手(破壊の爪)	白兵	4r+1	1	Lv+8		攻撃力9
		0				
grand jet	白兵	4r+1		17		1,2,3,4,6,7 コスト17
Fouettes en Tournant	白兵	4r+1		17+5D		1,2,3,4,5,6,7 コスト19 80↑

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
レベルⅢボディアーマー	14	7	-2	-1	

合計装甲：	7	合計回避：	-2

所持品	
思い出の一品	
コネ:情報屋	
コネ:噂好きの友人(雨屋 守)	
ウェポンケース	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
忘れてしまった誰か(RE)	P 安心感	N 喪失感		
出雲春花(GR)	P 幸福感	N 不安		
雨宮 守	P 庇護	N 憐憫		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
黄泉還り	P	N		

最大財産P: 20	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
軍神の守り	★	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果： カバーリングを行う。1メインプロセスに1回。								
イージスの盾	3	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果： ガード値+LvD								
獣の誇り	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果： ガード時に宣言。バッドステータスを受けない。重圧でも使用可能。1シーンLv回。								
戦士の知恵	5	5	オート	至近	自身	自動	-	
効果： G値+[Lv*2]								
ブラックマーケット	3	3	常時	至近	自身	自動	-	
効果： 常備化ポイント+[Lv*10] 基本侵蝕率+2								
八重垣	★	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果： 二つの武器でガードできる								
ドクタードリトル	★							
効果： 動物はおともだち								
プロファイリング	★							
効果： 名探偵、ですから！								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

昔読んだミステリー小説の探偵に憧れて探偵という職業についた。
しかし実際はたくさんの難事件の謎を解く依頼が来るはずもなく、離婚調査とペット探しが主な仕事内容であった。
それでもいつか来る日に備えて推理ショーの練習は毎日欠かさない。
まずはコーヒーにミルクを入れなくても飲めるようにならなければ、そう思いながら毎日喫茶店でアイスコーヒーを頼んでは渋い顔をしながら飲んでいる。
大体ひと口で限界を感じミルクを追加で頼む。
タバコも吸いたい、でも苦手。なので持っているだけである。

とある事故に巻き込まれて死亡し、その際に覚醒した。
覚醒した時の影響か、覚醒より過去の記憶が所々抜けている。
それでも自分が一度死んでいるということ、誰かの想いによって生かされたということだけははっきりと覚えている。
その人のためにも自分は生きなければ、自分にできることは何なのか、そんな想いからオーヴァードとして力を使うことを決意した。
人間としての出雲秋葉はすでに死んでいることになっている。
そのため、覚醒前に生きていた家や街を離れ、現在生活している。
かつて関わりのあった人にも覚醒してからはまだ会っていない。
家族に会えないのは寂しいけれどあの人達なら元気に今まで通りやってくれてるはずだから大丈夫、くらいに考えている。
それとは別にどうしようもなく誰かに会いたくなることはあるが誰に会いたいのかはどうしても思い出せない。
その人に関して思い出せるのはその人が確かに存在していたこと、自分にとって特別で大切で一緒に居たかった人、という事だけである。

どういうことか覚醒してから動物に良く好かれる。
能力を使って会話できるからだろうか、それとも動物になれるからだろうか、なんて本人は考えている。
覚醒してもやっぱりタバコとブラックコーヒーは苦手。名探偵への道はまだまだ長そうだ。
いつか名探偵になる、という自分の中の目標。